

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：14301

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2019

課題番号：15KK0118

研究課題名（和文）20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Chinese Diasporas in/and Contemporary Southeast Asia(Fostering Joint International Research)

研究代表者

北村 由美 (Kitamura, Yumi)

京都大学・附属図書館・准教授

研究者番号：70335214

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,400,000円

渡航期間：7ヶ月

研究成果の概要（和文）：インドネシアをはじめとする東南アジアの国々では、歴史的に中国との国際関係が、国内の華人に対する政策や、華人に対する社会的な差別に強い影響を及ぼしてきた。本研究の主な目的は、既存の華人研究において看過されてきた台湾の位置づけを、日本、台湾、インドネシアの研究者による国際研究チームによって共同で調査することで、華人研究を相対化し、新たなパースペクティブを提示することであった。本研究では、初年度である2016年度に、研究代表者がインドネシアと台湾に長期滞在し調査研究を行った。その上で、研究期間を通じて、計8回の国際セミナーを日本、台湾、インドネシアで開催し、研究成果の共有と刊行を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、1.アメリカと中国と双方の影響を強く受けながら、東南アジアに対して影響力を持っていた台湾におけるインドネシア華人移民の歴史と現在の解明、2.国際宗教ネットワークと華人の移動に関するフィールドワーク、3.ディアスポラにみられる、マルチナショナル・アイデンティティの功罪の解明、4.それぞれの時代の国際関係と国内政治の状況が、世代の異なる華人の行動様式に影響を及ぼしたかを主要な研究テーマとして設定し、インドネシア科学院と国立政治大学（台湾）の共同研究者とともに、国際研究集会を計7回主催・共催し、成果の刊行に向けて準備を進めた。これらの成果によって、華人研究の新たな知見を示す。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to provide new perspectives on the Study of Chinese Overseas in Southeast Asia. The social status of Chinese in Southeast Asia have long been affected by the political relationship between the Southeast Asia and mainland China. By conducting research through the international collaboration among scholars from Indonesia, Taiwan, and Japan, this study contextualized Taiwan's to the Chinese Overseas in Southeast Asia.

研究分野：東南アジア地域研究

キーワード：東南アジア 東アジア 華僑・華人 移動

様式 F-19-2

1. 研究開始当初の背景

インドネシアをはじめとする東南アジアの国々では、歴史的に中国との国際関係が、国内の華人に対する政策や、華人に対する社会的な差別に強い影響を及ぼしてきた。インドネシアの場合、1966年から1998年まで実権を握ったスハルト政権下においては、反共の旗印のもと、中国共産党とのつながりを疑われた国内の華人に対する差別的な同化政策を行ってきた経緯がある。1998年の民主化後は、スハルト期の同化政策は廃止されたが、国民の対中国感情が国内の華人に対する感情に投影される社会的構造は変化していない。この状況を脱構築するためには、インドネシア社会における華人認識のステレオタイプを継承せず、新しい知見をもとに、中国を相対化するモデルを示す華人研究を行う必要がある。しかし実際には、これまでの華人研究では、マクロなレベルにおいては中国と現地の国家間関係を問題とし、ミクロなレベルにおいても、中国の影響を現地の華人社会や文化に投影して分析することが主流であった。

2. 研究の目的

本研究の基盤となった、基盤研究(B)「20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動」(2012年度～2016年度)は、インドネシア華人とその再移住の調査を通じて、脱植民地化、国民国家形成、冷戦といった20世紀のアジアの国際関係を個々人のナラティブからとらえなおすことを目的とした。本研究では、これまで中国大陸と移民先の2地点との関係を中心に論じられてきた華人研究に、台湾との関係を日-台-イの研究者による国際研究チームによって実証的に調査することで、華人研究を相対化し、東アジアと東南アジアの国際関係における華人の移動史に関する新たなパースペクティブを提示することであった。具体的な研究テーマとしては、以下の4点に取り組んだ。

1. アメリカと中国と双方の影響を強く受けながら、東南アジアに対して影響力を持っている台湾におけるインドネシア華人移民の歴史と現在の解明
2. 国際宗教ネットワークと華人の移動に関するフィールドワーク
3. ディアスポラにみられる、マルチナショナル・アイデンティティの功罪の解明
4. それぞれの時代の国際関係と国内政治の状況が、世代の異なる華人の行動様式に影響を及ぼしたかの検討

3. 研究の方法

- 初年度にあたる2016年度は、受入れ先である、インドネシア科学院と国立政治大学にそれぞれ数カ月滞在し、主たる研究協力者の協力のもと、文献調査やインタビュー調査に取り組むとともに、本研究テーマに関連するネットワーク形成を行った。特に、上記研究目的の2点目に関連して、調査を進めた。具体的には、インドネシア華人にはキリスト教徒が多いことから、インドネシアカトリック教会の唯一の全国誌である *Hidup* の1965年から現在にいたるバックナンバーの必要箇所の撮影を行い、関係者にも多数インタビューを行った。
- 2017年度以降は、大小の8回の国際研究会をインドネシア・台湾・日本で主催または共催し、研究成果の共有と今後に向けた検討を行った。

4. 研究成果

本研究の目的に従って、以下の国際研究会をインドネシア・台湾・日本で主催または共催し、研究成果を共有した。うち1)の国際研究会の成果がすでに公刊されており、その他については、公刊に向けて準備中である。

- 1) **International Workshop on Making Global Trajectories of Chinese Diaspora Studies in Asia** (2017年11月5日-6日・インドネシア科学院 ジャカルタ) 【インドネシア科学院との共催】
 - 発表者：10名(参加者：インドネシア・マレーシア・台湾・日本)
 - 成果の公刊：Scopus掲載誌、*Issues & Studies* Vol.54 No.1 (March 2018) に、セミナーで発表された3論文に研究代表者によるイントロダクションを加えた特集 *Re-Positioning China's and Taiwan's Migration in Southeast Asia* が掲載済み
- 2) **International Seminar on Chinese Mobilities and Capital Flow in Southeast Asian and Taiwan** (2018年8月2日・国立政治大学 台北) 【国立政治大学との共催】
 - 発表者：4名(参加者：インドネシア・台湾・中国・日本)
- 3) **Seminar on A History of Catholic Church in Indonesia during the Japanese Occupation** (2018年10月29日・京都大学) 【「東南アジア研究の国際共同研究拠点」共同研究「インドネシアにおける宗教による平和と共生の模索」野中葉代表(慶應義塾大学)との共催】
- 4) **Contextualizing Taiwanese & Chinese Presented in Southeast Asia and Southeast Asians in Taiwan –in Both Historical and Contemporary Perspectives** (2019年3月6日)

- 日 - 7 日・国立政治大学 台北) 【国立政治大学との共催】
- 発表者：14 名 (参加者：インドネシア・オーストラリア・台湾・香港・日本)
 - 成果の公刊：現在単行本の出版に向けて準備中
- 5) **Outlining Taiwan's New Southbound Policy as the Thick Regionalization Strategy**
(2019 年 3 月 14 日・京都大学)
- 発表者：Dr. Alan H. Yang (国立政治大学)
- 6) **Towards a New Nanyang Studies: Examinations of Tonghwa and Tsinoy beyond the 'Sinophone'** (2019 年 12 月 16 日 - 17 日・京都大学) 【シドニー大学との共催】
- 発表者：12 名 (参加者：インドネシア・シンガポール・マレーシア・フィリピン・オーストラリア・アメリカ・日本)
- 7) **Tionghwa Millenials: Writing Symposium** (2020年1月16日 - 17日・アストン・ボゴール・ホテル ボゴール) 【インドネシア大学との共催】
- 参加者：20名 (インドネシア・日本)
 - 成果の公刊：様々な分野で活躍するミレニアル世代のインドネシア華人の経験を収録した一般書の出版に向けて準備中
- 8) **The Chinese Filipino as Creative Writer/The Chinese Indonesian as Activist/with Charlson Ong and Dédé Oetomo** (2020 年 2 月 4 日・京都大学)
- 発表者：Charlson Ong (フィリピン大学・フィリピン華人の作家)・Dédé Oetomo (ガヤ・ヌサンタラ・インドネシア華人の活動家)
 - 成果の公刊：オンラインジャーナル *Kyoto Review of Southeast Asia* での刊行に向けて準備中

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Yumi Kitamura	4. 巻 54(1)
2. 論文標題 Finding Passages with Cultural Capital: New Dimension of Mobilities in East and Southeast Asia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Issues & Studies: A Social Science Quarterly on China, Taiwan, and East Asian Affairs	6. 最初と最後の頁 1802001-1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1142/S1013251118020010	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yumi Kitamura	4. 巻 1
2. 論文標題 The Re-recognition of Confucianism in Indonesia: An Example of China's Soft Footprint in Southeast Asia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 China's Footprints in Southeast Asia (Singapore: NUS Press)	6. 最初と最後の頁 172-193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hew Wai Weng	4. 巻 54(1)
2. 論文標題 Entangled Mobility: Hui Migration, Religious Identity and Cultural Capital in Malaysia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Issues & Studies: A Social Science Quarterly on China, Taiwan, and East Asian Affairs	6. 最初と最後の頁 1840001-1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1142/S1013251118400015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Thomas Alexander Charles Barker	4. 巻 54(1)
2. 論文標題 Screen Connections between Malaysia, Taiwan, Hong Kong, and China	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Issues & Studies: A Social Science Quarterly on China, Taiwan, and East Asian Affairs	6. 最初と最後の頁 1840002-1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1142/S1013251118400027	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Alan H. Yang	4. 巻 54(1)
2. 論文標題 Unpacking Taiwan's Presence in Southeast Asia: The International Socialization of the New Southbound Policy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Issues & Studies: A Social Science Quarterly on China, Taiwan, and East Asian Affairs	6. 最初と最後の頁 1840003 -1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1142/S1013251118400039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北村由美	4. 巻 14
2. 論文標題 「新刊紹介 Shu-mei Shih, Chien-hsin Tsai, and Brian Bernards eds. Sinophone Studies: A Critical Reader」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『華僑華人研究』	6. 最初と最後の頁 85-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yumi Kitamura	4. 巻 18 (1)
2. 論文標題 Long way home: The life history of Chinese-Indonesian migrants in the Netherlands	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Wacana: Journal of the Humanities of Indonesia	6. 最初と最後の頁 24-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 2件/うち国際学会 5件)

1. 発表者名 Yumi Kitamura
2. 発表標題 Sexual Minorities in Christian Context in Indonesia
3. 学会等名 SEASIA Biennial Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yumi Kitamura
2. 発表標題 Challenging the Borders of Religious 'Morality': Sexual Minorities in Christian Context in Contemporary Indonesia
3. 学会等名 5th International Conference on Urban Studies: Border, Transportation, and Space (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yumi Kitamura
2. 発表標題 Chinese Indonesians in the Catholic Charismatic Renewal Movement
3. 学会等名 International Workshop on Making Global Trajectories of Chinese Diaspora Studies in Asia (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yumi Kitamura
2. 発表標題 Re-recognition of Confucianism as a State Religion of Indonesia and Its Implications in Asian Context
3. 学会等名 The World Confucian Religion Congress (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yumi Kitamura
2. 発表標題 Chinese Indonesians in the Wave of Charismatic Renewal
3. 学会等名 Beyond the National: The Regional and Transnational Trajectories of Chinese Indonesians (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 北村由美（分担執筆）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 593
3. 書名 「インドネシアの「華人文化」解禁と新たな文化創出」華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』	

1. 著者名 北村由美（分担執筆）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 593
3. 書名 「オランダの華僑華人」華僑華人の事典編集委員会編『華僑華人の事典』	

1. 著者名 北村由美（編）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学附属図書館	5. 総ページ数 315
3. 書名 『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』	

1. 著者名 北村由美（執筆分担）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学附属図書館	5. 総ページ数 315
3. 書名 「移動の語りとはざまで」『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』	

1. 著者名 北村由美 (執筆分担)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学附属図書館	5. 総ページ数 315
3. 書名 「オランダに移住したインドネシア華人のライフストーリー」 『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』	

1. 著者名 北村由美 (執筆分担)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学附属図書館	5. 総ページ数 315
3. 書名 「9・30事件と左派知識人の家族」 『20世紀アジアの国際関係とインドネシア華人の移動』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Chinese Diasporas in/and Contemporary SEA http://project-archives.org/2012b/en/ Chinese Diasporas in/and Contemporary SEA http://project-archives.org/2012b/en/ Chinese Diasporas in/and Contemporary SEA http://project-archives.org/2012b/en/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	トゥン ユーラン (Thung Ju Lan)	インドネシア科学院・Pusat Penelitian Masyarakat dan Budaya・Researcher	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	楊 昊 (Yang Alan Hao)	国立政治大学・Center for Southeast Asian Studies・Executive Director, Professor	
その他の研究協力者	ブディアンタ メラニ (Budianta Melani)	インドネシア大学・Faculty of Humanities・Professor	
その他の研究協力者	アンディニ リズキ (Andini Rizki)	アイルランガ大学・Faculty of Humanities・Associate Professor	